

件名	学校給食の放射性物質の測定に関する陳情			
提出者 住所氏名	墨田区堤通 墨田区の子どもを放射能から守る会 代表 I			
受理年月日	平成26年9月3日	受理番号	第13号	
<p>要旨</p> <ol style="list-style-type: none"> 給食の放射性物質を測定する回数を増やし、限りなく0ベクレルに近い給食を実現してください。 セシウムだけではなく、ストロンチウムまで計測できるように体制を強化してください。 現在行っている陰膳方式の測定だけではなく、調理前の食材についても測定してください。 <p>(理由)</p> <p>(1) 墨田区は、福島第一原発の事故による内部被ばくを心配する区民の要望を受け、全国でも早く学校給食の放射性物質の測定を始めました。しかし、当初は各施設で毎月1回の測定であったものが、平成26年度においては「各施設で年に合計4回の測定を実施する」という状況です。これでは十分に子どもたちを内部被ばくから守れません。市場で流通している食材は、国の基準値以下であったにせよ、キノコ類や魚、肉などの放射性物質を蓄積しやすい食材については、丁寧に測定することが必要です。</p> <p>ベラルーシの元ゴメリ医科大学学長のユーリ・バンダジェフスキー氏は、最少でも体内セシウムが*5ベクレル/(体重)キログラムを超えると、心電図に影響が出ると試算していますので、限りなく0ベクレルに近い給食を実現してください。</p> <p>(2) 現在、区が使用している測定器では放射性核種のストロンチウムを検出することができません。ストロンチウムは骨や筋肉に蓄積する特徴をっており、育ち盛りの子どもたちにとっては最も危険な放射性物質です。現在の体制を強化し、ストロンチウムを検出できるゲルマニウム半導体検出器の購入及び測定に必要な人員の増強をお願いします(品川区では1校あたり年間1回のストロンチウム検査を実施しています)。</p> <p>(3) 一般的に行われている測定方法は、調理済みの給食を測定する「陰膳方式」ですが、細かく放射性物質を測定するには調理前の食材を測定する必要があります。特に放射性物質を蓄積しやすいキノコ類などを特定して測</p>				

定するようお願いいたします。
以上の趣旨をご理解の上、上記事項の実現をお願いいたします。

以 上